

## 熊本市 感染症発生動向調査 速報

【お願い】感染症には、潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中あるいは帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。また、麻しんなどは流行地域で感染し、帰国後に発症して国内で地域的に流行する例が散発していることもありますので海外に渡航していなくても、症状が出た場合は、必ず受診前に医療機関へ電話で相談し指示に従ってください。海外渡航された場合には、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での職歴や活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴などについて必ず伝えてください。また受診の際は感染が広がらないよう自家用車を利用するなど、公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

### トピックス 感染性胃腸炎（細菌性胃腸炎）について

感染性胃腸炎には、細菌性のものとウイルスによるものがありますが、夏季に多い傾向があるのは細菌性胃腸炎でこれから注意が必要です。



#### ◆どんな病気？

細菌性のものでは、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌（O-157等）、サルモネラ、カンピロバクターなどが原因となります。

- ・**症状**……原因となる病原体の種類、感染経路、身体に入った病原菌の量、感染者の健康状態により異なりますが、主に吐き気や下痢、嘔吐、腹痛、発熱などがみられます。
- ・**潜伏期間**…1～3日程度（病原体により1時間～10日間程度のものもあります）
- ・**感染経路**…病原体の付着した手が口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。
- ・**流行期**……細菌性胃腸炎に関しては、年間を通して発生がありますが、夏場に増加するものが多いです。

#### ◆かかったらどうすればいいの？

- ・細菌によるものであれば、抗生物質の服用が有効な治療法となります。
- ・下痢や嘔吐が続くときには、脱水に気をつけます。嘔吐がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとる心がけましょう。

#### ◆予防法は？

- ・帰宅時や食事の前、トイレの後に、流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・二次感染を防ぐため、患者の便や吐物の処理は、直接触れないよう使い捨て手袋やマスクを着用し、汚染された衣類や床などは、次亜塩素酸ナトリウムや熱湯、アルコール（ノロウイルスには無効）等でしっかり消毒しましょう。
- ・調理をするときは、中心部まで火が通るようによく加熱しましょう。二枚貝などは中心部が85～90℃で少なくとも90秒間の加熱が必要とされています。

期 間		2019年 16週	2019年 17週	2019年 18週			
※第18週はゴールデンウィーク中休診の医療機関もある為、報告数が少なめになっています。		4/15～4/21	4/22～4/28	4/29～5/5（最新）			
疾患名	17・18週 疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		8	0.32	8	0.32	11	0.44
RSウイルス感染症		2	0.13	3	0.19	2	0.13
咽頭結膜熱（プール熱）		9	0.56	9	0.56	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		39	2.44	33	2.06	4	0.25
感染性胃腸炎		100	6.25	86	5.38	55	3.44
水痘（みずぼうそう）		4	0.25	7	0.44	2	0.13
手足口病		31	1.94	24	1.50	18	1.13
伝染性紅斑（りんご病）		9	0.56	3	0.19	3	0.19
突発性発しん		17	1.06	11	0.69	8	0.50
ヘルパンギーナ		2	0.13	3	0.19	0	0.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0	0.00	0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		24	4.80	15	3.00	1	0.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		21	4.20	19	3.80	10	2.00